



院長より

6月7日（木）に鳥取大学医学部の非常勤講師として、医学科4年生の「臨床感染症学～小児感染症学～」の講義をしました。大学の呼吸器・膠原病内科に所属している頃は日和見感染症や血流感染症の講義を担当していましたが、昨年からは小児感染症学を担当しています。総論では、小児科特有の季節的流行パターン、抗菌薬治療、予防接種について、各論では、溶連菌感染症、伝染性膿痂疹（とびひ）などについて講義しました。講義は、スライド（パワーポイント）と配付資料で行いますが、その準備の過程で、知識を整理することができました。

6月17日（日）に「鳥取県医師会春期医学会」に出席しました。教育講演では、鳥取大学医学部歯科口腔外科の領家教授が「口唇裂・口蓋裂の治療」について講演されました。生後間もない時期から、手術、言語治療、矯正といった各専門のスタッフによる一貫治療が必要であることを、鳥取大学附属病院での実例を示しながら説明されました。特別講演では、鳥取大学医学部整形外科の豊島教授が「重症軟部感染症の診断と治療」について講演されました。初期には重症かどうかの判断が出来ないので注意が必要なこと、重症化を疑った場合は、すぐに専門医を受診することなどを説明されました。



医療理念

① 私たちは、患者さんと信頼関係を築き、温かい医療を提供し、健康の喜びを共有します。

② 私たちは、地域住民が安心して暮らせるよう、社会資源と連携し、当院の役割を果たします。

鳥取市健康診断、各種がん検診のご案内

今年も鳥取市健康診断、各種がん検診が7月1日より始まります。ご用命の方はお気軽にスタッフまでお尋ねください。

【健康診断】

- * 基本的な健診項目（全員）
 - ・ 問診（既往歴、服薬歴、喫煙歴など）
 - ・ 身体計測（身長、体重、腹囲）
 - ・ 血圧測定
 - ・ 医師の診察
 - ・ 検尿（尿糖、尿蛋白）
 - ・ 血液検査（コレステロール、中性脂肪、肝機能、血糖またはHbA1c、腎機能、尿酸値）
（今年から、腎機能と尿酸値が追加となりました。）



- * 詳細項目（医師が必要と判断した時のみ）
 - ・ 心電図、貧血検査

【がん検診】

- ・ 肺がん検診（胸部レントゲン検査、喀痰検査）
- ・ 胃がん検診（胃カメラ）
- ・ 大腸がん検診（便の潜血検査）
- ・ 肝炎ウイルス検査（B型、C型肝炎ウイルス検査）

注：鳥取市健康診断は予約制とさせて頂いております。

蜂さされ（蜂刺傷）について

これからの時期（初夏から秋）は「蜂さされ」に注意が必要です。初夏から秋は、蜂の巣が発達し、蜂の攻撃性が強くなっています。

昨年は、庭の草刈りをしている時、ベランダに干していた洗濯物をたたむ時、お墓参りの時、秋の遠足の時などに蜂に刺され、受診されるケースが目立ちました。

蜂に刺されると、その直後から強い痛みと皮膚の腫れ・赤みが現れます。遅延型アレルギーによって、1～2日後に腫れがひどくなる場合があります。

治療は、アレルギー反応を抑える注射、刺された部位の処置（ステロイド軟膏、リバノール湿布）、内服療法などを行います。血圧が低い場合は点滴を行うこともあります。

蜂に刺されて強いアレルギー反応が起こった場合は、特異的アレルゲン（スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ）の血液検査を行うことが今後のために有意義です。



熱中症・脱水症について

熱中症もこれからの時期に注意が必要です。高温多湿な環境で熱中症を起こしやすいので、空調・扇風機・日よけなどで環境を改善しましょう。運動や仕事の前には体調を整えておくことが大切です。睡眠不足や過労を避け、下痢や発熱などの体調不良がないことを確認し、前日の飲酒、朝食の未摂取を避けましょう。また、日光が当たる時は、日陰で休憩し、透湿性や通気性の良い服装をして、ナトリウム（塩分）入りの飲料水を摂取しておきましょう。小児や高齢者は熱中症になりやすいので周りの人が注意してあげてください。高血圧症、心臓病、脳卒中、糖尿病、腎不全、神経疾患などの病気がある人は、熱中症になりやすく、重症化しやすいので、普段から病気の管理をきちんと行い、高温多湿な環境を避けた方が無難です。



よねだクリニック

0857-37-6123



HP <http://www.yoneda-clinic.com>
Mail info.clinic@yoneda-clinic.com

診察時間	月	火	水	木	金	土
午前8:30～12:30	○	○	○	○	○	○
午後3:30～6:30	○	○	○	休	○	休

ご意見・ご要望などございましたら、お気軽に院長またはスタッフにお申しつけください。ホームページの「ご意見箱」もご利用下さい。